

教育センターだより

～第102号～



令和5年3月3日発行

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

☎ 20-3108

20-3048(相談専用)

個々の児童生徒に応じた支援を目指して

佐野市教育センター所長 浅生 まゆみ

◇はじめに

2021年度の文部科学省による調査で、不登校児童生徒数が過去最多であったことが発表されました。佐野市においても例外ではなく、その数は年々増加傾向にあります。

教育機会確保法(H28公布)を受け、学習指導要領には、「不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要」があり、「その行為を『問題行動』と判断してはならない」と明記されています。また、不登校児童生徒への支援について、「登校という結果のみを目標にするのではなく、児童や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある」とあります。

◇個々の児童生徒に応じた支援

不登校児童生徒への支援については、個々の児童生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもち、それぞれの児童生徒に合った支援をしていくことが大切です。

不登校となった要因や背景、状況は、一人一人違います。例えば、登校への不安がとても強く休養した方がよい場合は、無理に登校を促すようなことは控え、子供の思いを尊重しつつ見守る。一方で、心のエネルギーが蓄えられ、活動への意欲や気力が生まれてきた場合には、本人がやりたいと思えるような学習や活動など学びの機会を提案してみる。このように、それぞれの状況に応じて支援の方向性も変わることと思います。また、支援を進める際には、児童生徒や保護者の意思を十分に尊重することが大切ですし、状況に応じてスクールカウンセラーや

スクールソーシャルワーカー、関係機関等との連携を図ることも必要です。

◇教育センターにおける不登校支援

現在、教育センターでは、不登校支援として、次のような取組を行っています。

- ・教育相談
- ・不登校児童生徒支援教室「アクティヴ教室」
- ・不登校児童生徒支援企画「みんなのがくや」(月1回程度)
- ・不登校支援フォーラム(年間4回)
- ・小中学生のためのオープンキャンパス「サノタンからの招待状」(年間1回)

アクティヴ教室では、学校と連絡を取り合いながら、児童生徒・保護者の思いや状況を把握し、一人一人に応じた声掛けや関わりを心がけています。また、小さなことでも皆で話し合い、自分たちで決定し実践する経験を積み重ねられるようにしています。「みんなのがくや」は、今年度から始まった取組です。登校に抵抗や悩みのある児童生徒が、それぞれの状態に応じて参加し、スポーツやゲームなど様々な活動を通して人とつながる機会となっています。

こうした取組の中で、子供たちの笑顔や新たなことをやってみようとする心の変容が見られることもあり、とても嬉しく感じています。

◇おわりに

教育センターでは、今後も学校・家庭・地域・関係機関等と連携し、登校に抵抗や悩みのある児童生徒や保護者に寄り添った支援に努めてまいります。心配なことがありましたら、遠慮なく教育センターに相談いただきたいと思います。

令和4年度 佐野市教育センター調査研究委員会の研究概要報告

《学習指導調査研究委員会》

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現するための
1人1台端末の利活用について ～1人1台
端末が<書く活動>にもたらす可能性～」

学習指導における1人1台端末の利活用に関し、研究領域においては先進的な取組を根拠とした言説が様々に飛び交い始めている一方で、現場レベルにおいては、未だ手探りの状態が続いているのも確かであり、先生方も様々な課題や疑問等を感じながら日々の指導に当たっていると思われまます。

そこで本年度は、1人1台端末の利活用に関わって、先生方が日々感じている学習指導に関する課題や疑問等を把握し、そこに寄り添った報告ができるような研究を進めようと考えました。

実際に先生方の声に耳を傾けると、深い学び、表現力の育成、個別最適な学び、ICT機器の活用、評価の在り方など、様々な話題が出されましたが、その中でも<書く活動>に関する内容が多くの先生から挙げられ、学習指導調査研究委員会においても次第に議論の中心となっていきました。その背景には、<書く活動>との親和性を感じさせる1人1台端末への期待と不安があるのではないかと思います。

以上を受けて設定された本研究は、様々な教科・領域等での<書く活動>を充実させる手段として1人1台端末を用いた実践事例をもとに、<書く活動>において1人1台端末がどのような役割を果たし得るかを明らかにすることを目指しました。研究紀要に示した1人1台端末の特性や活用事例を、先生方が各々の得意分野や専門領域で活用する一助としていただけたらと思っています。



学習指導調査研究委員会委員長

《特別支援教育調査研究委員会》

研究主題

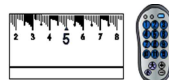
「通常の学級におけるインクルーシブ教育の
推進 ～教育のユニバーサルデザインと居が
いのある環境づくり～」

学校教育では、一人一人の児童生徒が互いに学び合い、コミュニケーションをとり合いながら生活をする中で、一斉授業の中で理解をすることが難しかったり、友達に自分の気持ちをよく伝えられずにトラブルになり落ち込んだり怒ったりするなど、集団生活の様々な場面で困難さを抱える様子が見られます。そのため、一人一人の子どもの困難さに寄り添った適切な指導を通常の学級の中で行っていく必要があります。その際に、障がいの有無にかかわらず、より多くの児童生徒にとって、分かりやすく学びやすい教育のユニバーサルデザインを提供することで居がいのある学校生活につなげていきたいと考えました。

そこで、特別支援教育調査研究委員会では、通常の学級におけるインクルーシブ教育の推進を図るため、「教育のユニバーサルデザインと居がいのある環境づくり」をサブテーマに、児童生徒の実態やニーズに合わせて、どのような支援ができるのか、次の3点に視点を当てて研究することにしました。

- ①学習面(授業)のユニバーサルデザイン
- ②生活面(教室環境)のユニバーサルデザイン
- ③人的環境のユニバーサルデザイン

教育のユニバーサルデザインについての研究を通して、全ての児童生徒に対して有効な指導や支援について実践を集めたり、考えを深めたりすることができました。また、教職員がユニバーサルデザインの視点をもつことによって、支援や課題解決の方法の幅を広げることができたことが一番の成果であると考えています。



特別支援教育調査研究委員会委員長

新・大型提示装置導入

今年度、佐野市立小・中・義務教育学校に30台の電子黒板と173台の液晶ディスプレイ、計203台の大型提示装置を整備しました。

◎電子黒板

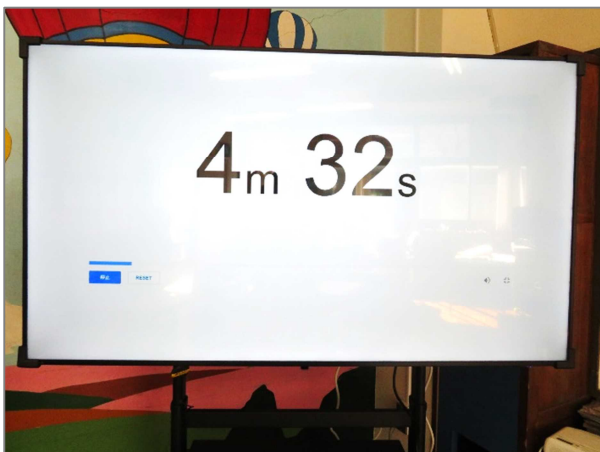
指導者用端末と接続しての使用だけでなく、電子黒板単体としても多くの授業支援機能が備わっている優れたものです。



英語のデジタル教科書を表示

◎液晶ディスプレイ

液晶ディスプレイは、65インチと大型画面でありながら、従来のものより軽く移動もしやすいのが特徴です。



タイマーとして活用

今回の整備により、既存の電子黒板や液晶ディスプレイと合わせると、令和5年度は市立学校の全普通教室に大型提示装置が配置されることとなります。ぜひとも、積極的な活用をお願いします。

就学先決定までの流れ

佐野市教育センターでは、就学時期を迎える前に、障がいのある子供をもつ保護者に向けた理解・啓発のための取組を以下のような流れで行っています。

① 就学説明会（5月）

障がいのある子供のためにどのような就学先となる学校や学びの場があるのか、就学先決定までの流れについて説明します。対面及びオンラインでの説明会を複数回開催します。

② 就学相談（6～9月）

幼稚園、保育園、認定こども園または教育センターにおいて、子供の教育についての相談をします。

③ 就学調査（7～8月）

保護者の同意がある就学予定者を対象として、園において、教育支援委員会調査委員が園児の様子を調査します。

④ 特別支援学級見学会（9～10月）

希望する保護者が指定学区の特別支援学級を見学します。

なお、中学校の特別支援学級見学会は7月中に実施します。

⑤ 市教育支援委員会（10～12月）

就学時健康診断後、就学予定者と保護者に教育センターに来所いただきます。教育支援委員会委員と相談の上、教育支援委員会としての審議結果を通知します。

審議結果に同意する場合は、就学先が決定となります。

⑥ 市教育支援委員会後の就学相談（10月頃～）

教育支援委員会の審議結果に同意しない場合、教育センターにおいて、保護者との就学相談を行います。就学相談後、就学先が決定となります。

上記の他、佐野市教育センターでは、随時、教育相談を受け付けています。本市の子供たちが安全な環境の中で安心して学べるよう努めています。

佐野市不登校児童生徒支援教室「アクティブ教室」の活動状況

現在、「アクティブ教室」には、小学4年生から中学3年生までの27名(R5年2月末現在)の児童生徒が通級しています。

「アクティブ教室」の前に付く名称も適応指導教室から不登校児童生徒支援教室と変わり、今まで以上に一人一人の個性が輝き、誰もが安心して過ごせる居場所になるように努めているところです。

活動内容は、学校のワークブックやタブレットなどを使った学習、調理実習・製作・農園等の活動、いちご狩りや地域散策、ちぎり絵など地域の方々の御支援による様々な体験活動、他地区教室との交流など、多岐にわたります。

一番の人気は昼食後の「ハーモニータイム」です。活動内容は、通級児童生徒が話し合いで決めます。年度当初は自分のやりたいものを押し通そうとする姿や、沈黙が続く場面も見られま

したが、最近は「昨日カードゲームだから体育館かな。」「卓球をやりたいのですが、どうですか。」など、合意形成を図っています。

目標に掲げた「在籍校への復帰に向けて自ら動き出そうとする力や社会的自立の基礎となる力を身に付ける」ためには、「悩みながら自分で考える・自分の思いを伝える・話し合って決める・集団で楽しむ」といった経験は不可欠です。

今後も、不登校児童生徒が心のエネルギーを貯めて自信をもって動き出せるよう、在籍校の先生方、保護者の皆さんと手を携えながら、個に応じた支援のみならず、幅広い異年齢集団の良さを生かした体験・交流活動の更なる充実を図っていききたいと思います。



今年度の教育相談内容・相談者数・相談回数について

令和5年1月末現在

相談内容	学校種別	小学校								中学校				高校 その他	合計	電話	直接
		幼児	1年	2年	3年	4年	5年	6年	不明	1年	2年	3年	不明				
1 不登校	新規人数のべ回数	2	3	3	3	3	4	4	1	5	1	4			33	25	8
		2	4	3	3	5	4	1	1	5	9	1			58	26	32
2 集団への適応	新規人数のべ回数				1										1	1	
					4										4	3	1
3 ことば	新規人数のべ回数														0		
															0		
4 学業・進学就職	新規人数のべ回数														0		
															0		
5 情緒	新規人数のべ回数	1	1							2		2			6	1	5
		1	1		2	2	4			2	3	1	1		36	3	33
6 非行	新規人数のべ回数														0		
															0		
7 教育一般	新規人数のべ回数	3	1	3	2	3	1	4	1	2	3			1	24	21	3
		3	1	6	2	3	1	5	2	3	4			2	32	28	4
8 いじめ	新規人数のべ回数		1	1								1			3	3	
			1	1								1			3	3	
学年別	新規人数のべ回数	6	6	7	6	6	5	8	2	7	3	10	0	1	67	51	16
		6	7	10	11	20	9	16	3	7	15	27	0	2	133	63	70
学校別	新規人数のべ回数	6				4	0					2		1	67	51	16
		6				7	6					4	9	2	133	63	70

相談方法	新規相談の来談者内訳						合計
	父	母	本人	学校機関	※その他	小計	
電話	6	40	1		4	51	67
直接	1	12	3			16	

※その他は祖父母等

昨年度同時期と比較すると、相談のべ回数は16件増加しました。新規相談者の相談内容として最も多いのが「不登校」、次いで「教育一般」となっています。

不登校の相談については、特に9月以降増えている傾向があります。



あとがき 野山に春の息吹を感じる季節となりました。今年度の佐野市教育センターの各種事業も滞りなく終了することができました。皆様の御協力と御支援に心から感謝申し上げます。